

企画意図

人権というと、なんだか難しいことと思いがちです。しかし、私たちの日常生活のいろいろな場面に「人権のヒント」は隠されています。この映像教材は、ドラマの手法を使って、日常に潜む人権問題を「地域編」と「職場編」の二つの視点から切り取り、自分のなかの人権意識を考えるためのきっかけにさせていただくことを狙い、制作しました。

内容

人権のヒント 地域編 「思い込み」から「思いやり」へ

街の喫茶店「カフェ・ヒューマンライツ」のママのところに、さまざまな思いをいだいた人々が集ってくる。その交流のなかから、「人権のヒント」を考え、それぞれの違いを思いやる心の大切さを理解していく内容。

- 結婚したら女は家庭に入るのが常識？
- 障がいのある人は何が何でも介護されるべき存在でしょうか？
- 自分を通すために強く主張して相手を傷つけたり、いい出せなくて自分が傷ついてしまったりしたことはありませんか？
- 同和問題や外国人差別など、根拠のない思い込みと決めつけはありませんか？



人権のヒント 職場編 気づきのためのエピソード集

ごく普通の会社員の日常を描きながら、日頃は気づかない「人権のヒント」を探り、職場のなかで私たちが考えるべき人権問題について提起する内容。

- 「男女の役割」女性は常に男性にリードされるべき存在ですか？
- 「セクシュアル ハラスメント」相手がいやがる言動はすべてセクハラです。
- 「パワー ハラスメント」相手の立場に立つことが大切です。
- 「双方向のコミュニケーションがつくるもの」普段からの関係が重要です。
- 「アサーティブな主張」キーワードは(心くばり)と(思いやり)です。
- 「障がい者との共生」障がい者を先入観だけで見ていませんか。
- 「出自で差別」ある地域出身というだけで差別される同和問題は今も残っています。
- 「ダイバーシティの尊重」多様性を認め合うことがとても大切です。



プロデューサー・・・中鉢 裕幸／平田雄三
監督・脚本・・・前田 和男

撮影・・・越智 光彦
音楽・・・引地 康文

制作協力・・・株式会社クリックス
企画・制作・・・東映株式会社 教育映像部